

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

口腔ケア困難事例における看護師による脱感作・K-point 刺激法導入前後の比較
—看護師の意識変化と行動変容、口腔内衛生状態の変化—

2. 研究責任者(当院)

所属：A2 病棟

氏名：四宮 早織

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：該当なし

代表名：該当なし

3. 分担研究者

所属：該当なし

氏名：該当なし

4. 研究対象者

【質問紙調査】質問紙調査実施期間に、課長を除いて聖隷佐倉市民病院 A2 病棟に勤務している看護師全員を対象とし、アンケートの提出をもって研究参加の同意を得ることとする。

【口腔ケア介入】2025 年 8 月～2025 年 9 月の間に、聖隷佐倉市民病院 A2 病棟において看護師による脱感作あるいは K-point 刺激法を受けた患者のなかで、脱感作・K-point 刺激法実施前後での口腔内衛生状態を比較できる患者を対象とする。

5. 研究の必要性

口腔ケアの重要性が広く認知されてきている現在、口腔ケアに介助が必要な患者に対して、病棟看護師は日々継続的なケアを実施している。しかし、時にケアがおろそかになってしまうことがある。そこで病棟看護師に対して口腔ケアに関する調査を実施したところ、患者に拒否されてしまう場合にケアの難しさを感じる、口腔ケアに関する知識・技術に自信が無いという声が多く聞かれた。口腔ケアを実施する際に、患者が開口しないなど協力を得られない場合がある。その原因は顎関節症や関節リウマチなどの疾患による開口障害や、意識障害・認知症によるものなど様々であるが、ケアに拒否がある事例において特に看護師が介入に困難感を感じていることが多い現状にあることが分かった。看護師個々の手技に差があり、患者に十分な口腔ケアが実施されないことにより、患者の口腔内の不衛生や誤嚥性肺炎のリスク増強、不快感増強、ひいては QOL 低下につながっていく。2025 年 6 月～8 月の間に当該病棟に入院中の患者の中で、口腔ケア困難事例に該当する 2 例を見ても、2 例共発熱があり誤嚥性肺炎を来し、絶食管理となっていた。口腔ケアに拒否が見られる場合の対応方法として、脱感作や K-point 刺激法があり、これらは歯科領域で主流となっている。これまでの研究で高齢者に対する口腔ケア実践の効果や、歯科衛生士が実施する口腔ケアの効果に関して明らかにされてきた。しかし看護領域においては脱感作や K-point 刺激法はあまり浸透しておらず、口腔ケア困難事例に対して歯科領域専門職でなく看護師がこれらを導入して関わった効果については検証されていない。

今回、病棟看護師に対して脱感作と K-point 刺激法に関する勉強会を実施し、口腔ケア困難事例に該当する患者に対して脱感作と K-point 刺激法を取り入れた口腔ケアを実践した。この研究ではこの事例を振り返ると共に、勉強会実施後に病棟スタッフに対して口腔ケアへの意識や困難感・実践の現状・患者の口腔内衛生状態について質問紙による調査を実施する。これにより、勉強会実施・脱感作と K-point 刺激法導入前後での看護師の口腔ケアに対する意識変化と行動変容、患者の口腔内衛生状態の変化を明らかにする。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測（*アンケート調査の場合は不要）

本研究において脱感作と K-point 刺激法を活用した口腔ケアを実施するにあたり、対象者が不快感・苦痛を感じた場合には、一度研究参加に同意した場合であっても途中辞退可能である。また研究参加は自由意思であり、参加の是非により研究対象者が不利益を被ることはない。

研究で得られたデータは匿名性を保持し個人情報保護に細心の注意を払い管理する。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151

担当者氏名：四宮 早織

対 応 時 間：